

令和 7 年

まちづくり・公共交通推進特別委員会会議録

と き 令和 7 年 8 月 2 7 日

品 川 区 議 会

令和7年 品川区議会まちづくり・公共交通推進特別委員会

日 時 令和7年8月27日(水) 午後1時00分～午後2時20分
場 所 品川区議会 議会棟6階 第1委員会室

出席委員	委員長	の だ て 稔 史	副委員長	石 田 秀 男
	委員	え の し た 正 人	委員	藤 原 正 則
	委員	田 中 た け し	委員	若 林 ひ ろ き
	委員	塚 本 よ し ひ ろ	委員	松 本 と き ひ ろ

出席説明員	鈴木都市環境部長	鵜田都市整備推進担当部長 (広町事業担当部長兼務)
	高梨都市計画課長	中道都市開発課長
	溝口防災まちづくり部長	櫻木地域交通政策課長
	森道路課長	大友公園課長
	関根河川下水道課長	

○午後 1 時 0 0 分開会

○のだて委員長

それでは、ただいまから、まちづくり・公共交通推進特別委員会を開会いたします。

本日は、お手元に配付してございます審査・調査予定表のとおり、特定事件調査およびその他を予定しております。

なお、本日は議題に関連して、都市整備推進担当部長、都市開発課長、道路課長、公園課長、河川下水道課長にご同席いただいておりますので、ご案内いたします。

また、本日、石田ちひろ委員はご欠席されるとご連絡をいただいておりますので、ご案内いたします。

本日も効率的な委員会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

また、本日は 3 名の傍聴申請がございますので、ご案内いたします。また、その中で 2 名の方から録音申請が出ておりますので、これを許可いたします。

まず、本日の予定に入ります前に、正副委員長から調査日程の追加についてご案内いたします。

7 月 3 日の委員会で頂戴したご意見、ご要望等を踏まえ、検討、調整しました結果、お手元の審査・予定表のとおり、本日の予定に、「八潮・勝島のまちづくりに関すること」を追加することとなりましたので、よろしくお願いいたします。

1 特定事件調査

(1) 新庁舎および大井町駅周辺地区に関すること

(2) 八潮・勝島のまちづくりに関すること

○のだて委員長

それでは、予定表 1 の特定事件調査を議題に供します。

まず、(1)「新庁舎および大井町駅周辺地区に関すること」のうち、大井町駅周辺地区社会実験についての調査を行います。

理事者より、大井町駅前中央通りにおける社会実験について、取組や進捗などをご説明いただきます。その後、委員の皆様にはご意見、ご提案等をいただき、活発な議論をしていただければと考えております。

それでは、理事者よりご説明をお願いいたします。

○中道都市開発課長

それでは、大井町駅前中央通りにおける社会実験の実施についてご説明いたします。

まず現状というところで、資料をご覧ください。1 番、ウォーカブルのまちづくりについてでございます。こちらの部分は国土交通省からの部分をご説明いたします。まず、「居心地が良く、歩きたくなるまちへ」というところで、「ワクワクする区民が活躍・交流する舞台づくり」「できるところからやってみよう」「人にやさしい空間・ちょっと寄れる雰囲気づくり」、こういったものをつくっていくというところがウォーカブルのまちづくりということになってございます。

「WE DO」というところで、今こちらの記載のとおり、歩きたくなる、また、まちに開かれた 1 階の部分、多様な人の多様な用途、使い方で、開かれた空間が心地良いといったものを目指すものでございます。

そこで、続きまして、ウォーカブルなまちになるまでというところで、STEP 1 から STEP 4 としてございます。現在、大井町で行おうと思っているものは、STEP 2 にあたります。まず、STE

P1が構想・イメージの検討というところで、これは昨年度、地域の方々と行ってまいりました。STEP2といたしまして、社会実験の実施・調査というところになります。STEP3といたしましては道路整備、STEP4としましてにぎわい創出といった形で進んでいくというところでございます。

また、参考事例といたしましては、京都のウォークブル事業でございます。2005年に地元の商店街から要望がございまして、市民と共に検討を重ね実現に至った取組でございます。幹線道路の車線数を片側2車線から1車線に減少させ、歩道を拡幅し、歩行者空間を創出し、沿道の滞留時間も増えたというところで、よりにぎわいを生んだというところでございます。こちらにつきましては、2015年に工事が完了してございます。また、分散したバス停の集約や、車の乗降場所、荷物の積卸しが可能なスペースなども設置をいたしまして、道路の考え方についても整理したというところでございます。

資料右側にいきまして、2、大井町駅前中央通りの現状と地域の声というところでございます。皆様もご存じだと思いますけれども、現状、写真のとおり、歩行者・自動車交通量が少なく、道路の1車線部分には警察のコインパーキングの機能がありまして、駐車場の利用となっている状況でございます。

また、こちらは交通量調査を行ってございます。12時間当たりで車の交通量を調べているというところでございます。この図面のとおり、A断面のところで、西側に行く方面は12時間で406台、東側に行く部分では587台というところで、これを24時間換算して倍にしまして合計、足しましても、東西両方面で約2,000台、1,986台が通行しているというところになってございます。そうしますと、いわゆる品川区の持っている道路の基準というところで、第3級以下の交通量水準というところになりますので、交通量だけで見ますと、片側1車線の合計2車線の車道で十分交通機能は果たすというところは把握しているというところでございます。

また、地元の意見として、令和6年度に社会実験の検討会にてアンケートを行ってございます。その中のご意見といたしましては、大井町トラックスが開業しますけれども、既存市街地にどうやって人が流れてくるのか、そういったことについて不安であったりとか、もしくは人が多く来るのではないかと喜んでいる、そういった様々なご意見があったというところでございます。

また、新たな来訪者に大井町のよさを知ってもらいたい、大井町トラックスではなくて既存市街地のよさも知ってもらいたいというようなお話も聞いてございます。

また、イベントを開催すると人は訪れる。これはもう今、行っているのだ、日常的に訪れる場所にしたいというような意見もいただいています。また、同じく日常的に人通りが多い道になってほしい、憩いのスペースとして交流できる場所が欲しい、より緑の多い歩道にしたいと、そのような意見もいただいているような状況でございます。

次のページにいきまして、社会実験の実施案についてご説明いたします。

3、大井町駅前中央通り社会実験の概要についてでございます。大井町駅周辺の日常的なにぎわい創出と回遊性の向上のために、大井町駅前中央通りの車道の一部を歩道化いたしまして、期間限定で社会実験を実施するというものでございます。

位置図といたしましては、今、図面の下のほうに緑でハッチングしてございますけれども、大井町駅前中央通り、どんたく通りの部分で社会実験を行うというようなところで、今、赤い矢印で書いているところは、将来こういった広町、大井町トラックスができた暁にはこのような回遊性が見込まれるのではないかというような推測をしてございます。

なぜ大井町駅前中央通りなのかというところでございます。広町地区の開業を契機に、大井町駅周辺地区に訪れなかった方々の来訪が予想されるというところで、また、大井町西口E地区の市街地再開発

事業もございます。その中で、立会道路の再整備も含んだ計画を今現在検討してございますので、そういった流れも出てくるだろうと思われま。また、広町地区からE地区につながり、大井町駅前中央通りまたは大井町駅周辺の回遊性につなぐ場として創出するということで、今、考えているというところでございます。また、先ほど前のページでご説明しましたけれども、こういった機会に大井町駅前中央通りの道路の在り方も含めて検討していければと考えてございます。

委託先といたしましては、NPO、特定非営利活動法人のまちづくり大井に今年度はお願いをしているというところでございます。実績といたしましては、どんたく祭り、ハロウィン、縁日などを主催し、いわゆる大井町に人が集まる活動、ウォーカブルの活動を今も取り組んでいるというような団体でございます。

スケジュールにつきましては、令和6年度、社会実験の検討会を開催してございまして、8月7日、12月10日に計2回行っているような状況でございます。今年度の上半期につきましては、計画検討または警察との協議といったものを進めてございます。

今後、下半期の社会実験の開催時期といたしましては、今、資料には秋もしくは春と記載してございますけれども、10月下旬にハロウィンイベントがありますので、そこを起点に、二、三週間程で調整を進めているような状況でございます。社会実験が終わりましたら、調査結果を検証いたしまして、令和8年4月にまた当委員会にて調査報告を行いたいと思っております。

5番目、調査内容でございます。アンケート調査を行って、社会実験の取組や、歩道の拡幅、歩きとなる要素などを聞いていきたいと考えてございます。

また、交通量調査といたしましては、固定のAIカメラと目視での調査を行っていききたい。今現在、固定のAIカメラでは、歩行者の交通量の流れとか、そういうものも予想できますし、さらに顔の表情から利用者の感情も分析して、いわゆる楽しんでいただいているとか、そういうことも分析できるということで活用していききたいと考えてございます。

駐車場の利用調査につきましては、やはりこういったことで警察のパーキングが使用できなくなりますので、近隣パーキングの利用率、または路上駐車が増えているかどうかなど、こちらも併せて調査をしていきたいと考えてございます。

6番、実験の配置イメージでございます。まだあくまでこちらは検討中ということでございますけれども、車道の一部を安全防護柵で囲いまして、その中で最大、6台でございますけれどもキッチンカーに来ていただく、もしくは、地元の方々が食品で、お弁当を売ったりコーヒーを売ったりしていただく。地元の方もやはりこういうものでは重要ですので、今、参加いただけるかどうかというのをお話を進めているところでございます。

また、マルシェであったりとか、1日そういったところで読書ができるような形での青空図書館、また、ミニコンサートみたいなものを計画してございます。

また、椅子やベンチも設置いたしますけれども、人工芝を敷いて、いわゆる雑魚寝みたいな感覚でくつろいでいただけるような空間も設置していきたいと考えてございます。

私のほうからの説明は以上でございます。

○のだて委員長

説明が終わりました。

これより質疑等を行います。ウォーカブルなまちづくりを調査項目として、7月30日の委員会にて実施した千代田区への視察を踏まえ議論を深められればと思います。視察の振り返りに関わるご意見

等もありましたら、併せて伺いたいと存じます。

それでは、本件につきまして、ご質疑、ご意見、ご提案等がございましたらご発言願います。

○えのした委員

ご説明ありがとうございます。調査内容というところで、歩行者の交通量調査（固定式A Iカメラと目視）です。表情から利用者の感情も分析するという、A Iカメラ、そういう新しい取組なのかな。私も地元で交通量調査、ビーコンというのですか、かなり設置して、数か月にわたって行われたことがありました。そのときにたしかアプリが入っている、調査会社はどのアプリというのは教えてはいただけないのですけれども、皆さんのスマホに入っている何件かの使用量の多いアプリから、その人たちの行動、購買まで分かるような交通量調査というのをやっていたのです。そういったA Iカメラによって、新しく、利用者の感情も分かるというのが、どこまでの内容なのか。金額を使っているとか人の流れとかということも分かるのか詳しくお聞かせいただきたいです。

あと、人工芝と書いてありますけれども、よく学校改築で人工芝になったと聞きます。今、人が寝転がってというお話がありましたが、例えばキッチンカーとかが来たときに、学校では人工芝の上で飲物も水以外駄目とか、食べ物を食べてはいけないとか、ジュースを飲めないとかとあるのですけれども、その辺はもう学校とは全く違う人工芝の取扱いなのか、その辺を詳しく教えていただけますでしょうか。

○中道都市開発課長

まず、固定式のA Iカメラですけれども、こういった形で調査するのは初めてになります。今、お話を聞いている中だと、喜怒哀楽の部分で非常にそういうのがきちんと分類化されて、人は多いのだけれどもそこまで皆さんが楽しい顔をしていないとか、でも、人は少ないのだけれども、やはりそういった中でゆとりの空間がある、それで居心地がいいと。いわゆる人が多い少ないというだけの判断ではなくて、少なくともいいもの、多いけれども逆に集まり過ぎて不快感を示すみたいな、そういうところも調査できるみたいなことを聞いていますので、そういったところを今後こういった空間づくりには生かしていきたいと考えてございます。

人工芝につきましては、やはり食べ物というのがどうしても食べ残しの部分とか、あとは飲物をこぼしてしまってベトベトするお砂糖の部分とかがついてしまうというのは、やはり今、問題としてございます。今回地元とお話ししている中では、毎日かどうかは分かりませんが、高圧洗浄機で定期的に洗わないと、そこではどうしても食べ物の残り物というのが問題になると考えていますので、そういった形で対応していきたいと考えてございます。

○えのした委員

ご説明ありがとうございます。人工芝はやはりそういったメンテナンスというのが必要になってくるというのが確認が取れました。

あと、先日の神田神保町の視察も行かせていただきましたが、そちらを踏まえて、今度、「なんだかんだ」という取組で、9月1日に防災を絡めたイベントがあるというので、私も行きたいなと思っていたのですけれども、こういった中で、これからだと思えるのですけれども、防災に関した何か取組というのはお考えいただいていますでしょうか。

○中道都市開発課長

今、「なんだかんだ」という形で、イベントを様々地域のほうで取り組んでいるみたいなお話は聞いてございますけれども。神田のほうだ。ごめんなさい。そっちのですね。

今、大井町のほうでは、地域のほうで、ちょっと名前はすみません、具体のものは忘れてしまいまし

たけれども、様々イベントは行っているのですけれども、今回この社会実験の中では防災という形ではなくて、先ほどのウォークアブルという形での居心地のよさというところに特化して調査を行っていきたいと考えてございます。

○えのした委員

ありがとうございます。これからですけれども、ぜひそういった防災に関することでも取り組んでいただければと、こちらは要望で終わります。

○松本委員

ご説明ありがとうございます。すごくいい、楽しい取組だなとも思うのですけれども、先日、千代田区に視察に伺った際には留意点というところが何点か挙げられていました。1つは自転車の動線との関係という話であったかと思います。今回の社会実験のイメージ図を拝見すると、自転車道とかがあるわけではなく、かつ、今回の社会実験というのは、結構飛び出す、従前の車道に飛び出して安全防護柵を作るという取組かかと思しますので、若干これをやっている期間というのは自転車と車の動きが混乱する可能性もあるのかなと思っておりますので、その対応策を教えてくださいなと思います。

あと、これは将来的に今回のイメージに近いことを今、想定されているのか。というのも、今回だとこの通り全体の歩道が増えるというよりも、一部分だけ今回は飛び出した形になっているかと思うのですけれども、これはやってみてでないとなかなか分からないところかもしれませんが、将来像としては、行政としては今、どのように考えていらっしゃるのか伺えればと思います。

○中道都市開発課長

自転車の動線につきましては、こちらの部分も警察と協議をさせていただきます。検討中というところでございますけれども、基本的にやはり自転車は車道を走るものというところで、今回、イメージで、今、赤枠で飛び出している部分の外側、いわゆる灰色の道路の部分で自転車に通っていただくというところになります。そこにつきましては、また標識等で自転車の通るところというのは明示していきたいと考えてございます。

続きまして、将来のイメージというところでございますけれども、基本的には歩道を拡張するということで、全面的に拡張するような実験ができればいいのですけれども、やはり駐車場とか、あとは建物の駐車場、様々車の通りが交差部分以外にもございますので、そこは空けているというような形で行ってございます。将来的なイメージはいわゆる参考事例でお示しをしているような形で、全面的に歩道を広げられることがいいのかどうかといった形で考えていくということになってございます。

○松本委員

ありがとうございます。自転車については、最近自転車に加えてLUPですか、あちらもいろいろと問題になっていて、そういう意味では、車道のところで自転車とかそうしたものが通行できるほどの幅が確保できるというところで、車がいて自転車がいても一応十分な幅が確保できるというお見込みなのかというところを改めて伺いたします。

あと、今回植栽は、これはなかなかもう既に設置済みなので動かせないかと思うのですけれども、植栽があることによってどうしても歩行者の動線が限定されるようにも思います。この辺りの工夫はどのように、今、考えていらっしゃるのか伺います。

○中道都市開発課長

まず自転車の部分ですけれども、安全確保というのはこういった実験を行うに当たって、一番重要な部分だと考えてございますので、そこにつきましては引き続き警察と協議をしていきたい。いわゆる事

故が起こらないような形で進めていきたいと考えてございます。

歩行者動線につきましては、今、委員の言われたようにやはり植栽がございますので、植栽をなかなか一時期取ってというのももちろん考えたのですが、まずは第1回というところで、人の流れというのはまず現状で見ていきたいなと思ってございます。

あと、工夫といたしましては、ここに入り口部分に板を貼るとか、看板を貼るとかして、人の動線が分かりやすいような形で取り組んでいきたいと考えてございます。

○のだて委員長

ほかにありますか。

○田中委員

何点かお伺いをしたいと思います。公の事業なのでいろいろなところへの配慮が必要かと思います。まずその観点からお伺いしたいのですが、にぎわいを創出することを目的にこういう設置をするわけですが、さらに言うとキッチンカーなども呼んでということでもあります。そのことで多く人が集まればもちろんいい一方で、やはりこの沿道には既存のコンビニですとかうどん屋さんとかいろいろな飲食店もあります。それで、そういう方々への配慮の視点で、これは実証実験中で、先ほど飲食のこと、人工芝が汚れる汚れないのお話もありましたけれども、例えばキッチンカーを利用される方はここで当然飲食可能にするのだらうと思いますが、沿道のコンビニで買ったお客さんもこういうところで利用していただけるというふうにすると、沿道の飲食店からの協力も得られるのかなとか、新たなにぎわいの創出にもつながるのかなと思えるのですが、そことの関係性はどうかということと。

今回、委託先がまちづくり大井ということで、実績としてどんたく祭りとか等々ある事業者さんになります。なので、実証実験なのでいろいろなケースを想定した実験が必要だと思いますが、平時でのこういう設置をしたことでの人の流れがどう変わるかということと併せて、まちづくり大井の方などが運営されるイベント開催時においての実証実験はどうかという、地元の商店街とかあるいはまちづくりの関係のイベントとの一緒に合わせた実験も併せて必要なかなと思えるのですが、まずその辺をお聞かせいただきたいと思います。

○中道都市開発課長

まず周辺の飲食店への配慮というところでございますが、まずこの行政として空間づくりを行います。ここでもしご興味があればお昼のお弁当を売るとか、そういった出店というところで、今、周辺の飲食店の方々にお声がけをしているような状況でございます。

また、今回の実験につきましても、憩いの空間をつくるというところで目的がありますので、周辺でお弁当またはコンビニで何か飲物を買ったという方も、ここに設置する椅子やテーブル、ベンチといったところで利用していただければと思いますので、そこは遠慮がちに利用するとかということではなくて、何か明示看板とか工夫をしまして、多くの皆様にご利用いただけるような工夫を行っていききたいと考えてございます。

また、平日、祝日、そういったところの考え方でございますけれども、今まだ案ということでございますが、平日は飲食店の方またはキッチンカーとかで、まずお昼時間帯とかはそういうところでくつろいでいただければということと、また、何もしない、ただ芝生を敷いている、ちょっと椅子があるというような空間で子どもたちが、10月下旬だと大分暑さも和らいでいるかなというところで、そういったところで道路にチョークでお絵描きとか落書き、昔あったような、そういったこともできるような形で、日常的に遊べる空間にもしたいなということも今、考えている状況でございます。

土日とか、そういった休日の部分につきましては、もちろんキッチンカーとかもあるのですが、どちらかという物産展みたいな、イベントみたいな形を今、計画していたりとか、ちょっと何かここでそういったイベントみたいなところをやって、歩道を拡幅することで、その部分でイベントもできる、もしくは日常的な空間にも活用できるといったことをまず行政としてこういった実験でお示しをして、そこに対して地域の方々の機運が醸成する促しといったことも進めていきたいと考えてございます。

○田中委員

ぜひ積極的にこの事業を進めていただき、周辺の方の協力もまた評価もいただけるようにお願いをしたいと思います。

地元の方のご意見にもありますし、大井町トラックスの開業後の人の流れをこちらのほうにもっとというか、広く人の流れを受け入れるという視点もあって、今回の実証実験の部分につながっているのですが、今の時点では今年の秋から来年春にかけての二、三週間ということです。それから一方で、大井町トラックスが開業するのは3月末ということになります。なので、今回の実証実験については開業前の段階での実験ですが、そういう地元の方のご意向も踏まえながらも、また、本当の意味でのこの活用という視点を考えると、さらにこの実験は開業後も継続してやっていくべきだと思いますが、今の時点でのお考えをお聞かせください。

まずは1回目の今年の春までの段階での実験を一つ評価をする必要があると思いますが、そのときの評価というのはどういう基準で評価をされようとしているのか。人が、人数が集まったらそれはよしとするのか、あるいは周辺の商店も含めた、あるいは地元の方の意見等々も評価の対象にするのかとか、あるいは先ほど言ったように、トラックスが開業前の1回目の実験なので、開業後のことも踏まえるとまだまだ第1弾としての実験になるのかな、今後はトラックス開業後の期待を踏まえて継続をするという考えなのか、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

○中道都市開発課長

まず実験の継続というところでございますが、まず今回、今年、今年度実験を行いまして、そういった評価を踏まえて、また区のほうで今後どうするかというのは検討していくというものにはなるかと思っていますけれども、やはり数回やることによってより効果が出るのかなとは所管としては今、考えている状況でございます。

また、評価につきましては、まずこういったことでご利用された方々にアンケートを取るとか、周辺の飲食店または事業者の方にアンケートを取ったり、そういったことも行いますし、人の交通量などを測っていくというところで、様々調査をしていく中で、今、いわゆる安心感であったり、公園の空間であったり、もしくは今後の期待感とか、そういったカテゴリーを様々設けまして、そこに対してどういった効果があるかみたいな形でまとめていきたいと考えているところでございます。

ですので、今回の社会実験というものがこのイベントを開くものではないということですね。イベント、いわゆる大井町トラックスに来た方々を既存市街地のほうに促すというのは、やはりイベントを行うということでももちろん人は来ると思うのですが、それを行政がずっと今後継続して支援をしていくということではなくて、まず地域の方々の機運も必要だということを理解していただきたいというのもやはり目的の一つでございます。

そこに対して、そういった取組を地域としても行っていくとか、また、車の交通量も特に問題ない、歩行者もやはりそういった方々、大井町トラックスが開業することによって既存市街地も一定程度やは

り人が流れているといった、そういったことも総合的に踏まえて道路整備をするかしないかという話にも進展するでしょうし、そこは総合的にいろいろと見ていきたいと考えているところでございます。

○田中委員

いろいろな観点での評価をしていただいて、これはもう地域の方にしっかり喜んでいただけるようなものにしていただきたいですし、また、所管からするとまちづくりの観点からのこういう取組にはなりますが、地域の全体のにぎわいという視点も踏まえると、今後はトラックの側からの人の流れを受け入れるということも含め、例えば商業・ものづくり課ではなくて、商店街振興の観点とか、今後の展開としてはいろいろな部署との連携も含めて、踏まえて、この事業を大きく育てていただけるようお願いをしたいと思います。要望で終わります。

○藤原委員

改めてお伺いします。社会実験となっているのですけれども、まずこういう形でやってみて、調査をして、そして道路の拡幅等とか、どういう事業を進めていくかを定めるということで実験なのか、もう事業内容は決まって、こういう形で進めていきますよということがもう決まったという意味なのでしょうか。この社会実験ということ。私が考えるのは、まずやってみて、この調査内容をして、交通量とかアンケートとかを取って、区が考えているポイントといいますか数というか、それをきちんとクリアした時点でこれをどうやっていくかを決めていくことなのかなと思っているのですけれども、この事業はもうこういうふうにするということで決まってしまっているのでしょうか。

それともう1点は、この配置イメージを見せていただきました。今、両側にコインパーキングがありますよね。このコインパーキングはもうなくなってしまうということでもいいのでしょうか。取り払ってしまうということ。

それともう1点は、この道は一本道なのだけれども、西側に行くとT字路だからぶつかってしまいますよね、補助205号線と大井町駅前中央通りで。私個人の意見なのですけれども、だったらどん詰まりというか、補助205号線と当たるところまでこの実験をやったほうがいいと私は思うのです。西を見て左側とかまで持ってきたほうがいいと思うのですけれども。永遠ではないわけですよね、あそこは補助205号線でぶつかってしまうわけだから。その辺についていかがですかと。〔同日後刻に「先ほど補助205号線と言ったのですけれども、補助163号線でした」と発言訂正あり〕

あと、AIカメラで、今、人の流れはAIカメラで分かると思うのですけれども、顔の表情から利用者の感情も分析と、そこまで今のAIカメラというのはできるのですか。

○中道都市開発課長

4点、まず最初の質問でございます。まずやってみようというところでございます。やはり道路の使い方につきましても、いわゆる歩行者が大井町トラックが開業後もあまり変わらない、地域の方ももしかしたらにぎわいというものをやらないと仮定したときに、そこで歩道を仮に広げたとしても、現状変わらないのであれば、もしかしたら今の警察のパーキングというのが残ったままのほうが道路空間としては利用価値があるのかもしれない、そういう判断もあるかなと思います。ですので、そういったことも全体的に確認したいというところで、今回の実験をまずやってみようというところでございます。

2番目のコインパーキングにつきましては、警察のほうのコインパーキングだとは思っているのですけれども、そこにつきましては、まずは仮でこの社会実験の期間はカバーをかけて機能しないようにするというところで、社会実験が終わればまた今現状に復帰するというところでございます。

あと、実験の範囲につきましては、委員言われたように、西から東まで全体的にできるというのが一

番理想なのかなとは思いますが、今回1回目ということと、あとやはり予算というところもございますので、限定した範囲の中でやるということでございます。

A I カメラの表情分析なのですが、こちらのほうもやはり区としまして本当にできるのかなという疑問がございまして、今、確認しているのですが、過去にA I カメラで行った分析と、同時期に行ったアンケート分析結果というのがどのようにリンクしたかというのも確認してございます。おおむねA I カメラで表情分析したものと、人が口頭で楽しかったよとかと回答したものが一致しているということも確認しておりますので、一定程度精度の高い分析ができると判断してございます。

○藤原委員

A I の分析はそこまでいっているのですね。口頭の答えと同じぐらい分析ができるということで、最初に課長が、今、疑問もあるのですがと言ったけれども、これなら疑問はないですね。きちんと分析してくれるということは確認できたので、分かりました。

あと、一番最初に質問したみたいに、まずはやってみようということなので、これで決定で、大井町駅前中央通りがこういう形になりますということで、まだ地域の方には実験ですからというようなお話をしているという確認です。つまり、まだこれでやっていきますということではないのでしょうか。社会実験してみて効果等が出たときに本格実施をしていくということでもいいのですよね。

というのは、よく、今、答弁の中でも地域の方というお話が出ていますのですが、実はここは大井1丁目が中心だと思うのですが、私は大井2丁目に住居を構えていますから、大きい意味で地域の者なので、聞かれることが多くございます。この社会実験ですと、社会実験の分析の結果、施策として本格的に進めていくか考えていくということで地域の方にお答えしているのですよねという、再度の確認の質問です。

○中道都市開発課長

今回はあくまで実験というところで、地域の方にご説明していただければと思います。

A I カメラにつきましても、やはり最初に聞いたときは、行政といたしましても本当にカメラだけで分析ができるのかという不安があったのですが、そういった裏取りをして、きちんと高い精度で分析ができると確認しているというところでございます。

○のだて委員長

ほかに。

○塚本委員

すみません、最初に1ページ目の地元意見の中で、イベントとして人はもう訪れている、どんたくのイベントとかすごく人が出ているので、そういうことを指しているのかなと思いますけれども、日常的に訪れる場所にしたい、日常的に人通りが多い道になってほしい、これはいわゆる大井町駅前中央通りのことを指しての発言ということだと思っているのですが、ここに日常的に人が今以上にたくさん通行するということを望まれる意図というのは、飲食店等をやられている方がより多くの人を訪れることで経済的効果があるよねということで捉えていいですかというところを確認したいと思います。

○中道都市開発課長

地域の意見というところでございますけれども、今回検討会をやるに当たって、町会の方々、商店街の方を中心に検討会を行いました。そうした中で、様々な意見があったのですが、まずは人通りについて。通常皆さんが通っていただく、新しく来る方もどんたく通りを通っていただくような形になっていただきたいというところがまずそもそもの素朴なご意見というのがあったということです。

その中で、やはり通るということは、既存の商店街または飲食店にもお客さんとして来るから、売上げというところも、そういったお話もあったというところでございます。

○塚本委員

将来的にはより一層いろいろな商店が出店され、ますますにぎわいが増えていくということも想定されて、かなり長期的な視野も入れた発言というところで受け止めましたけれども、それでよろしいですかという確認です。

あと、駐車場という話が出てきていますけれども、もし将来的な選択肢の中には、ここは本当に道路1車線にして、片道1車線にして、もっと人のウォークアブルな道路にしていこうというようなことも選択肢としてはあるのかなと今までの質疑で伺いましたけれども、駐車場をなくすという、1時間300円の駐車場のことですけれども、これに対してのなくした場合の影響、どれぐらいのことが考えられるのかとか、なくすに当たってのハードルというのはどんなことがあるのかというようなことを、今の時点でどの程度を認識されているのかを伺いたいと思います。

○中道都市開発課長

まず、地域のまちづくりのにぎわいの部分でございますけれども、非常に長期的な話というものもあると思います。やはり大井町トラックスができますと、駅直結という部分もちろんございますので、その中で新しく来られた方が完結するという部分もあるかと思えます。一方で、非常に多くの方が来られるという、今、推測値でも出ていますけれども、そういった方々がいわゆる既存市街地に流れて、にぎわいというものが生まれれば既存市街地も一緒に成長できるのかなと思っています。やはり何かしないとということでの、この実験というところで、地域の方々とにぎわい創出に取り組んでいきたいというところで行うというものでございます。

続きまして、パーキングへの影響でございます。まず現状でいきますと、まずは違法駐車が増えるかどうか、路上駐車が増えるかどうかというのはもちろんこの中で確認していきたいというところです。あとは、今の既存のいわゆる路上のコインパーキング、通常のコインパーキングの利用率というものも調査していきたいと考えております。大井町トラックスができるとそちらのほうにも大型駐車場ができますので、こういった継続して社会実験をやることで、そこの大井町トラックスの駐車場のほうの利用率みたいなものも上がれば特段影響がないのかもしれないので、そういったことも確認していきたいと考えております。

○塚本委員

今の駐車場の件でもう1つ確認です。これは区道ですけれども、警察との協議はもちろんあるのだと思うのですが、区としてなくしても大丈夫だという判断でなくせる類いのものなのかというのを確認させていただきたいと思います。もしかしたら所管が違うのかな。一応分かる範囲で。

あと、一応空間の創出なのだというお話を聞いて、ああ、そうなのかというのが、私は今日認識を改めたのですけれども、ここをどちらかという通るというよりは滞在というかとどまるというか、そういうイメージの場所にしようとしているのかと捉えました。そういう空間の創出ということに至ったのは、この実証実験されたところのからの提案というか、そういう話があったのかというところもあるかとは思いますが、区として空間の創出というところを念頭に置いている、その考えについてのもうちょっと詳しい見解を伺いたいと思います。

○中道都市開発課長

まず、区道でのコインパーキングですが、今、このコインパーキングは警察が管理しているというこ

とになります。警察のほうからいわれるこれをなくすことによつての影響は特段ないというところで、確認ができればそういった話もあるよねということは聞いてはいるのですけれども、そこら辺のまず警察協議というのが必要なかなと思っています。もちろん区のほうの道路管理者についても、警察の考え方なども踏まえて協議を行って、大きくは警察と区の道路管理者、その2者のご意見を聞きながら判断をしていくものと考えてございます。

空間創出というところでございますけれども、やはり今のどんたく通りの歩道幅でいきますと、いわゆるマルシェ、縁日もそうなのですけれども、そういったものを出そうといつてもなかなか歩道幅が一定程度限られた空間ですのではなかなか難しいというところです。仮に歩道を広げた場合には、広げた部分で何かしら地域がやりたいイベント、マルシェでもそうですし、何かしらイベントみたいなものを日常的に行うことが可能な空間になる。そういったところだと、やはりそこには人も通るでしょうし、そこで人がまたとどまって何かしらの、飲食なのか遊びなのか分かりませんが、いろいろな様々なことができる。人が通れば周りの既存の建物の1階の部分にもそれなりの違う使い方というのが生まれてくるのかなと考えておりますので、そういったことを目的にいわゆる空間をつくっていききたいという考えでございます。

そこでやはり一番大事なのは、地域の方が継続してこういったにぎわいの取組というのをやっていただけるかどうかということが非常に重要なと考えてございますので、そのいわゆる考え方というのを今回の実験で具体的に地域の方にお見せして、そういった、私もできるかなではないですけれども、考え方というのを芽生えさせていければなと考えているというところでございます。

○塚本委員

ご説明ありがとうございました。かなり地元の方々のやはり意向というのは、これまでの話も出ていましたけれども、そういった中で大井町トラックスのいわゆる波及効果みたいなことをしっかりとこっちの地域のにぎわいにつなげていきたいというところの狙いはよく分かりますので、実証実験をまずはしっかりと注視させていただきたいと思います。

○藤原委員

すみません、1つだけ訂正させていただきます。先ほど補助205号線と言ったのですけれども、補助163号線でした。

○のだて委員長

ほかにありますか。

○若林委員

まずスケジュールですが、この実証実験は秋もしくは春かに、二、三週間ということです。当面大井町トラックスに合わせてというか、そこら辺からこっちに引っ張ってこれるか、回遊性も含めてにぎわいをお客さんをまちに呼び込めるかというところが当面の目標といいますか通過点というか、というふうなずっと質疑を聞いていて感じたのですが、そうすると、大井町トラックスは来年3月末の開業ということで、この開業後の二、三週間という意味か、それとは別ですよと、もう今年の秋にやってしまいますよという意味なのか、そこを確認をさせてください。

○中道都市開発課長

まず開催時期なのですけれども、すみません、資料を作成しているときはまだ具体的に決まっていなかったということでこういう書き方をしたのですけれども、今、実験の時期は、この秋のハロウィンが10月下旬にありますので、それをスタートとして、今、3週間を目指して調整を進めているという

ところでございます。

○若林委員

大井町トラックス開業後はどういう考え方ですか。

○中道都市開発課長

開業後につきましては、所管としますとひとまず来年度のまた社会実験というものを目指していきたいとは考えているところでございます。またそれは今後の予算の話とかもいろいろありますので、そこで調整していければと考えてございます。

○若林委員

同じ資料の左側に、なぜ大井町駅前中央通りなのかと記載があり、今、通過点の話について、質疑をさせていただきましたけれども、最終的にはここがゴールなのかなと。すなわち、一つ目に書かれているように大井町トラックスにいらした方々の来訪が予想されると。それから、次に、E地区の再開発と立会道路の再整備、それから3つ目が、E地区も含めたトラックスも含めた回遊性の創出、最後は道路の在り方ということで記載されています。区道も、あと都道とかもあるのですか、国道はないですね、あそこら辺は。国道ないのかな。ないですね。区道、都道、私道も若干あるのですけれども。

そうすると大分大きな話になる。今回は藤原委員がおっしゃった、何でどんたく通りの行き止まりまでではないのですかというところ。その半分ぐらいで、まずは小さく、比較的小さくやっていくということなののですけれども、これは一回社会実験をやっただけでなくて、そもそも大井町トラックスが開業後の実験も、まだ一応来年度のことなので明確なお話はないと思いますけれども、継続的に実験を繰り返して、道路、まち、いわゆる再開発も含めた、いろいろ来訪者も含めたまちづくりというところで、ただの社会実験というのではなくて、もう少し大きな見通し、計画、方針というものをやはり示していないといけないのではないかなと。いや、来年度予算では、みたいな話だといけないと思うので、現在の見解は伺いたいと思います。

あと、今年の3月でしたか、慶應義塾大学と3者協定を結んでいますけれども、今日のご説明には慶應の話は一切ありませんでした。関連性はいかがなのでしょうか。

○中道都市開発課長

まず大きい計画というところで、2020年に大井町駅周辺地域まちづくり方針というものを策定してございます。その中に、大井町駅前中央通りについても記載をしているというところでございます。記載の内容としますと、平時でも人の集いが生まれるよう、シンボルロードとしての再整備や駅前広場、周辺開発との連携した仕組みが必要であるという形です。いわゆるウォークアブルみたいな考え方というのは、そのときに区としては目指していきたいと計画で策定をしているというところでございます。

今後、E地区についても、計画があって、準備組合になっているというところで、大井町トラックスだけではなくて、補助26号線から南側も一定程度まちづくりが進んでくるというところ。まちをつくるというところと、あとはその地域の方々で全体で大井町を盛り上げていくといったことを連携しながら進めていきたいと考えているところでございます。

慶應義塾大学につきましては、大井町の中で歩きやすいまちづくりという観点で、慶應のほうで、今、研究をしてございます。そういった中で、この社会実験の中でもお声がけはしているのですけれども、まだ具体的にどのような形で取り組むかというのは、お返事はいただいていないため、社会実験で具体的に連携するかどうかというのはまだ未定ですけれども、年間を通じて大井町の中での歩きやすいまちづくりという観点で、今、連携をしながら進めているような状況でございますので、その部分も一層連

携を深めていきたいと考えてございます。

○のだて委員長

ほかにありますでしょうか。

○石田（秀）副委員長

1点だけお願いだけしておきます。私はやるのが大切だと思うのでお伝えします。先ほどハロウィンという話がありました。ぜひやっていただきたいのですが、2週間なら2週間、3週間なら3週間でもいいのですが、土曜から始めて日曜日で終わる、だから2週間だったら3回土日があるというようにして社会実験をやっていく、3週間なら4回あると、そういうやり方をぜひ、休みのデータを多く取ったほうがいいのかなと思っているので、それだけお願いしておきます。そうなるのかな。

○中道都市開発課長

期間については警察との協議の中で決定したものもございますので、また前向きに検討させていただければと思います。

○のだて委員長

ほかにはないでしょうか。

それでは私から、前回千代田区に視察に行かせていただいて、地域の方といろいろ協力しながら進めているという中で、私も楽しそうな取組だなと思って視察をさせていただきました。

この千代田区のウォークブルの目的は、地域の課題を解決し、QOLの向上を図ると、それとともに地域の愛着、つながりを強化するというところでやられておりましたけれども、改めてこの品川区の社会実験、実証実験の目的を伺いたいと思います。

それと、今回千代田区さんの実証実験では、やはり目的に即してアンケートや調査をして、一つの指標として評価をしっかりと効果検証しているというのを感じました。品川では目的に照らしていろいろアンケートですとかAIカメラによる検証をやるということですが、効果検証がそれでしっかりできるのかどうかというところを伺いたいと思います。

それと、資料の表面の下のところ検討会のアンケートの声が出ておりますけれども、その中で、憩いのスペースや緑の多い歩道にしたいという意見があります。緑があつて憩いの場があるというのは、私もいいなと思います。しかし、再開発につなげるべきではないということは意見を言っておきたいと思います。

今、国では市街地整備の取組を転換し始めていて、市街地整備2.0というものを発表しています。この中にエリア価値向上や持続可能性向上のためのポジティブスパイラルという図が書いてあるのですが、社会実験から始まって再開発につなげていくというような図になっているものなのです。今回の社会実験を同様のものにしてはいけないと思いますので、今回の社会実験が超高層の再開発につなげていくものなのかどうか伺いたいと思います。

○中道都市開発課長

まず目的でございますけれども、何点かあります。大井町トラックスが開業するという中で、新たに大井町へ来られる方に既存市街地のほうにも訪れるように取り組んでいきたい。また、どんたく通りでいわゆるにぎわいを創出する。また、憩いの空間といったものに取り組んでいく。また、地域の皆様の活動を継続的に行えるように、実験も取り組んでいきたいといったことが目的でございます。

また、効果検証につきましては、先ほどの繰り返しにもなりますけれども、安心感であったり達成感であったり今後の期待値であったりとか、そういった区分を設けまして、そこに対して利用者の方、周

辺の飲食店の方、または事業者の方、様々な方にアンケートなどを取ったりとか、または交通量でそういったことを分析していきたいと考えてございます。

また、今回の社会実験につきましては、今、冒頭に申しました目的を達成するために行う実験となりますので、再開発を促進するような目的ではございません。

○のだて委員長

効果検証のほうはしっかりできるようにしていただきたいと思います。あと、この社会実験は再開発につながるということですが、これ以上の超高層はやめていただきたいと思いますということで、これは一応述べておきたいと思います。

ほかになれば、以上で本件を終了いたします。

次に、(2)「八潮・勝島のまちづくりに関すること」のうち、にぎわい創出についての調査を行います。

理事者より、八潮・勝島地区のにぎわい創出について、ご説明をいただきます。その後に、委員の皆様にはご意見、ご提案等いただいて、活発な議論をしていただければと考えております。

それでは、理事者よりご説明をお願いいたします。

○中道都市開発課長

私からは、八潮・勝島のまちづくりに関することに関しまして、当該地区における各種事業の現状について説明をさせていただきます。

資料はA3判、横のものをご覧ください。資料では、区が主体となって進めているものを黒枠で、区以外の主体が進めているものをグレーの枠で示させていただいてございます。それぞれ旗揚げしている事業について、順次ご説明をさせていただきます。

最初に、資料左上、（仮称）勝島人道橋の整備は、8月上旬に下部工整備工事の現場作業が完了いたしました。また、7月から上部工整備工事に着手しており、令和9年度末の完成を予定してございます。

その右横、しながわ花海道の修景工事は、みどりを活かした回遊路を整備するもので、令和9年度に工事着手し、翌10年度の完成を予定してございます。

左上の2段目、小型浮棧橋の利活用は、ここを拠点とした地域による水上アクティビティ活動の実施に向け、今年度、地域の団体と協定を締結したところでございます。

その下、新浜川公園は大規模改修から40年が経過し、施設の老朽化が進んでいることから、しながわ花海道の修景工事と併せて全面改修工事を行ってまいります。

その下、排水機場整備、浜川ポンプ場の解体と、2つ下の護岸・樋門等の整備は、高潮対策等のため、立会川河川整備計画に位置づけられている東京都の事業でございまして、現在その前段となるポンプ場の解体工事を実施してございます。

左下から3段目、競馬場通りの無電柱化につきましては、第1期として、国道15号、第1京浜から東へ200メートルの区間で工事を進めております。今後周辺で行われる事業の進捗を踏まえて、第2期であるなぎさ会館前までの区間についても事業化を進めてまいります。

左下、しながわ水族館のリニューアルは、施設や設備の老朽化が進んだ水族館を次世代水族館にリニューアルするもので、都市型観光の拠点となる施設を整備してまいります。

中央下段、しながわ水族館船着場の利活用では、しながわ水族館のリニューアルとの連携や、水族館と船着場が連携した水辺活用企画の検討を行ってまいります。

その上、中央付近でございますが、大井競馬場の再整備では、土地所有者である東京都競馬株式会社が、本年1月、厩舎の移転を進め、大井競馬場の再整備を推進していく旨のプレスリリースを行ってい

るところでございます。

資料右側の上段、かもめ橋のライトアップおよび3つ下の勝島橋のライトアップは、夜間における水辺のにぎわいを充実させるため、ライトアップの新たな演出等の検討、実施を行ってまいります。

右上2段目、民間施設のライトアップは、ライトアップ空間の充実のため、現在実施されている民間施設のライトアップと連携した検討などを行ってまいります。

最後に、その下、民間管理の船着場の利活用および2つ下の東京都管理の船着場の利活用は、イベント等への活用を促進してまいります。

○のだて委員長

説明が終わりました。

それでは、本件につきまして、ご質疑、ご意見、ご提案等がございましたらご発言願います。

○藤原委員

今、ライトアップのご説明といたしますか、こういうふうにやっていきますよというご説明をいただきました。イメージ的にライトアップされるのはすばらしいと思いますし、夜間とかきれいでいいのですが、けれども、例えば、規模が違うかもしれないけれども、隅田川なんか橋がライトアップ等されていますよね。そうすると、すごくきれいだなみたいなイメージがあるのです。これは課長のご答弁ではないかもしれないけれども、観光という意味においても、どういうイメージを抱いているのか。あと、どういう方を引き寄せるか、ライトアップすることでどうなっていくかというイメージを、大きな話いいので説明していただけますか。ライトアップされると明るくなっていいよねだけではないと思うので、その後どういう形で人を呼び込むとか、その辺の大きなイメージでいいのですけれども、こういうふうになるのですよとか、こういう戦略があるのですよというようなことを説明していただけますか。

○関根河川下水道課長

今、ご質問いただきましたライトアップについてお答えさせていただきます。冒頭の説明の中でも、今後新たな演出等の検討と述べさせていただきましたけれども、まさしくどういったライトアップをすればより魅力的なライトアップになるかという検討を今年度から実施していく予定でございます。

検討においては、照明デザイナーに監修をしていただくことで、我々職員だけではなかなか出ないようなアイデアでしたり、そういったものも取り込みながら、非常に魅力のあるライトアップを作りたいと、そのように考えてございます。ですので、まだ現時点で具体的にこういうものをというのはございませんが、これから作り上げていきたいと考えてございます。

○藤原委員

課長、ワクワクしていいのですよね。このライトアップができれば、勝島、八潮のまちづくりにおいても、品川区において一つそういう場所ができたワクワク感があるわけですね。ライトアップは結構お金がかかるではないですか、電気代も含め。これからコンサルかもしれないし、いろいろ区ではなくという形でやろうと思うのですけれども、ただライトアップしているだけの橋ができました、というのでは私はよくないと思っていて、例えばここだったら競馬場のライトアップだとか、そういう意味でいろいろ循環というか、回遊していくような、八潮・勝島というまちづくりをしてほしい。まちの魅力の一つにおいて、ずっと歩いて行って、今回の範囲とは別なのですけれども、天王洲もあって、夜のまちのきれいさということもアピールしていただけたらと思うのです。まず、課長、ワクワクするかしらないか最初に答えていただいて、その後した質問において答えていただけますか。

○関根河川下水道課長

今、委員からお話しいただいたように、ワクワクできるものを作り上げていきたいと考えています。その中では具体的には、委員がおっしゃったとおり、ただ照らすだけということではなくて、今は例えば季節ごとのカラーであったり、様々な社会運動に合わせたカラーというところでライトアップしておりますけれども、例えばそれだけではなくて何かストーリー性ですとか、そういったような何か付加的なものを持たせるといったことも有効ではないかなと考えてございます。

それからもう1点、ご指摘された費用のところもまさにご指摘のとおりでございますので、今回の検討の中では、併せて持続可能なライトアップを目指しまして、維持管理等についてもどのようにすれば効率的に実施できるか、そういった検討も併せて行う予定としてございます。

○藤原委員

課長、期待しています。あまりこの場で言うことではないかもしれませんが、東京都が都庁で行っているプロジェクションマッピング、私も実は3回ぐらい見にいきました。閑散としていました、正直言って。私が行ったときは、偶然かもしれませんが、あまり見ている方がいなかった。それよりも、隣の大きいビルの中にクリスマスツリーがあって、そのツリーを見る人のほうが全然多かったです。でも、私はきちんと見ましたよ、あのプロジェクションマッピング。こうやって上を見ていたのは私ぐらいしかいなかったぐらい閑散としていました。

せっかくこれをやるわけですから、他自治体の方も見に来てくださって、すごくきれいだったねと感動してワクワクして帰って行っていただきたいと思っていますので、ぱっとライトをつけただけで終わらせないようにしていただきたい。せっかくやるわけですから、何か所も、本当に観光施策の一つとしても活用して行っていただきたいと思っておりますので、改めて期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

○のだて委員長

ほかにいかがでしょうか。

○田中委員

それぞれのポイントでの取組状況をお聞かせいただきました。これまでこの委員会でもいろいろと話題というか、この地域でのまちづくりのポイントとして回遊性ということが言われておりましたが、このようにポイントは分かりますと。ではここをどう回遊性、人の流れをどう導いていくとかといった視点は今のお話はなかったのですが、こういうポイント、ポイントを点を結んで線にして、またまちづくりという視点での面においての活性化につなげるということなのだと思います。下水道の関連の施設とかもあったりするので、こういうところは回遊性を求められないのでしょうか、例えば船着場とか、あるいは今お話があったライトアップの話とか、あるいは今後できる人道橋とか、こういったものをつなげることで面としてのまちづくりにつなげていく必要があると思うのですが、それは今後のまちづくりガイドラインではなくて、まちづくりの視点で出てくるということで、今日はこのポイントだけの話ということで受け止めていいのでしょうか。

○高梨都市計画課長

本日はこのエリアの現在動いている事業を中心にポイントでご説明をさせていただきましたが、前回の概要説明の場でも、この地域のまちづくりのビジョンであります「立会川・勝島地区まちづくりビジョン」に基づいて、回遊性を生かしたまちづくりといったところでご説明をさせていただいたところでございます。

今回説明させていただいたポイントの中でも、やはり勝島運河を取り巻く、今ご紹介がありましたけ

れども人道橋やしながわ花海道の修景工事、それと浜川公園の再整備、また、東京都が行っている勝島運河周辺の各種事業等々を有機的につないでいく、これらの事業の進捗を見ながら区としても連携を図っていく、人々が楽しみながらこの運河周辺を歩いて回っていただくような取組といったところは引き続き継続して考えていかなければいけない、このように考えているところでございます。

○田中委員

ぜひまちづくりビジョンに基づいて、回遊性についてもしっかり対応いただきたいと思います。

それで、今後この地域を進めるに当たって、私も若干認識が薄かった部分で、競馬場の再整備、今年の1月だったでしょうか、発表があって、トレーニングセンターを作るとか、それ伴って厩舎を移転するとかというお話もございます。場内の話なので、行政、品川区として、まちづくりビジョンも踏まえつつ、周辺のまちと競馬場との関係性はなかなかその関連性は見いだせないのかもしれないのですが、劇場のシアターHができ、競馬場を取り巻く周辺の環境も変化があり、いわゆるまちづくりビジョンを具体的に進める中で、競馬場の皆さんとのまちづくりという視点での連携といいますか、意見交換、あるいはまちづくりの視点で競馬場の協力を求めるという場面というのは、今まであるいは今後もあるのか、お聞かせいただきたいと思います。

○高梨都市計画課長

勝島地区は、以前は競馬場とそれに関連する施設またはそれ以外の倉庫街といったようなまちでしたが、土地利用が大分変わってまいりまして、マンションができたり、それと商業施設や、今ご紹介のありました劇場等ができ、大分まちの様相が変わってきているといった状況でございます。

まちづくりビジョンにおきましても、大井競馬場を広域のにぎわいと安心の拠点ということで、広域避難場所に位置づけられているというところも踏まえつつ、にぎわいと防災というような軸で、今後大井競馬場とも様々なお話しを続けていかなければいけないなと思ってございますし。今までの取組でいきますと、もう10年ぐらいたつかなと思っていますが、勝島地区のまちづくり情報交換会という名前で、大井競馬場以外にも東京モノレールであったりとか、倉庫を営む会社等々に集まっていたいて、区も当然そちらに入らせていただいて、勝島地区のまちづくりについて、様々な情報交換を行うというような取組を進めてございます。今年度の意見交換会もまさしく今、日程調整中で、やりましょうねというような話になっていますので、刻々と変化していくこのまちの状況の変化を捉えながら、東京都競馬、それと競馬行政、品川区としても、まちづくりビジョンも踏まえつつ、等も含めながら、いろいろと意見交換をしながら、よりよいまちづくりにつなげてまいりたいと考えているところでございます。

○田中委員

ぜひ連携を深めていただいて、まちづくりに対する協力もいただきながら、また、共ににぎわいの創出につなげていただきたいと思います。

○のだて委員長

ほかにございますか。

(「なし」の声あり)

○のだて委員長

ほかになければ、以上で本件および特定事件調査を終了いたします。

2 その他

○のだて委員長

次に、その他で何かございますか。

(「なし」の声あり)

○のだて委員長

特にないようですので、以上でその他を終了いたします。

以上で本日の予定は全て終了いたしました。これをもちまして、まちづくり・公共交通推進特別委員会を閉会いたします。

○午後２時２０分閉会